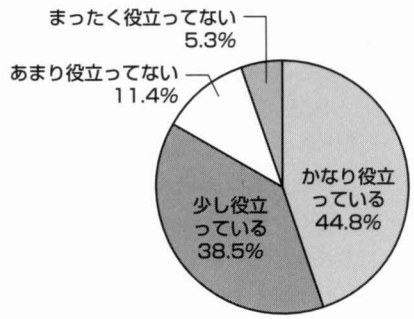
# 第4章 社会全般

## 医療

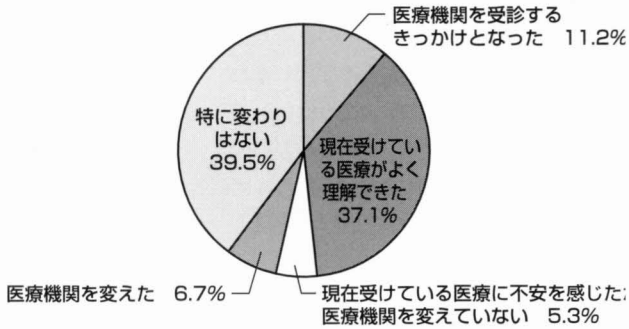
インターネットによる医療情報の提供への期待が高まる

資料4-4-1 インターネット上の医療、福祉関連の情報は役に立っているか N=493



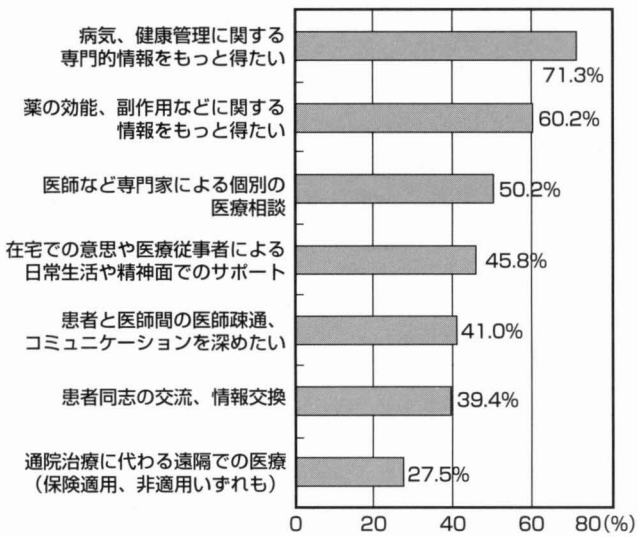

出所 日本インターネット医療協議会「インターネットの医療情報の利用状況に関するアンケート調査」の資料を元に作成

資料4-4-2 インターネット上で医療、福祉関連の情報を得た後の医療機関との関係 N=490



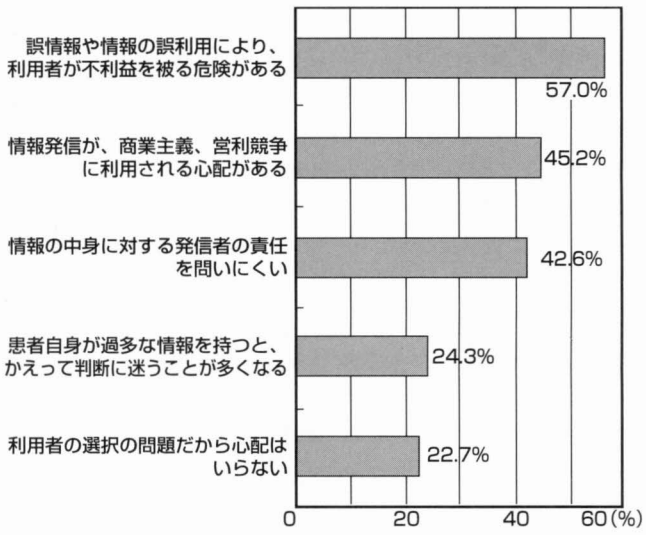

出所 日本インターネット医療協議会「インターネットの医療情報の利用状況に関するアンケート調査」の資料を元に作成

資料4-4-3 今後充実を期待するネット情報 N=502




出所 日本インターネット医療協議会「インターネットの医療情報の利用状況に関するアンケート調査」の資料を元に作成

資料4-4-4 懸念される問題点 N=502




出所 日本インターネット医療協議会「インターネットの医療情報の利用状況に関するアンケート調査」の資料を元に作成

## 解説

インターネット利用者がネット上で医療に関する知識を求める場合、医療従事者が必要とする専門的な医学的知識であっても、また病気、身体の異常、薬の効能や副作用などに関する市民の素朴な疑問に対しても、答えや情報が用意されている。しかし、インターネットを介した、これらの医療情報の利用は、新たな情報伝達手段であるがゆえに、その正確性や情報の出所、膨大な情報の中から適切な情報に到達できるかどうかなどについて、利用者に不安をいだかせるものとなっている。

1998年に設立された「日本インターネット医療協議会」http://www.jima.or.jp/index.html は、1999年初めに「インターネットの医療情報の利用状況に関するアンケート調査」を実施した。そして協議会のホームページ上には以下のような調査結果（速報）が公開されている。ネットでの医療情報がかなり役立つと答えた人は全体の45%に上り（資料4-4-1）、現在受けている医療がよく理解できたと答えた人が37.1%（資料4-4-2）、充実を期待するネットでの医療情報としては、病気や健康管理に関する情報が1位、次いで薬の効能や副作用に関する情報が上げられた（資料4-4-3）。一方、懸念する問題としては、誤情報や情報の誤利用によって利用者が不利益を被る恐れがあるということが1位であった（資料4-4-4）。

上記の調査結果には、ネット上の医療情報の入手に関する市民の期待と不安が如実に表れている。インターネットには行政などによる管理や監視は余りなじまないが、上記協議会のような良識あるネットワーク専門家のグループによって、ネット上の医療情報発信のあり方が絶えず吟味され、論議されることは、時代の要請とも言うべきことであろう。

（越智元郎 愛媛大学）



インターネット白書／ ©1996-2012 Impress R&D

# ［インターネット白書ARCHIVES］ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

http://IWParchives.jp/

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容（技術解説、データ、URL、名称など）は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者（執筆者、写真・図の作成者、編集部など）が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元（株式会社インプレスR&D）などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D（初期は株式会社インプレス）と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接的および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先 | 株式会社インプレスR&D | ✉ iwp-info@impress.co.jp

©1996-2012 Impress R&D, All rights reserved.